

平成21年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査費	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況		
協議会	2,052,000	名瀬地区	宮古崎	0	20	ハナヤサイサンゴが優占。健全なサンゴ群集が保たれている。	
		宮古崎東	0	5%未満	オニヒトデ食害により礁斜面下部は壊滅状態。上部に卓状ミドリイシ類が残っている。		
		デン浜	0	10	オニヒトデ食害により礁斜面下部は壊滅状態。浜中央の水道付近に卓状のミドリイシ類が残る。		
		知名瀬大浜	0	5%未満	礁斜面のサンゴは壊滅状態。礁縁に小型ミドリイシ類が少数残る。		
		大浜	0	5%未満	礁斜面のサンゴはほぼ全滅。礁縁に小型ミドリイシ類が生存している。		
		摺子崎	0	10	礁斜面のサンゴはほぼ全滅。ハナヤサイサンゴが優占している。		
		赤崎	0	5%未満	1998年に発生した白化現象によりサンゴは壊滅したが、新規加入のミドリイシ属がやや見られる。		
		名瀬湾立神	0	5%未満	1997年の台風、1998年の白化現象により卓状のミドリイシ群落は壊滅したが、新規加入のミドリイシ属がやや見られる。		
		山羊島	0	20	ハマサンゴ属が優占。大型のハマサンゴ群体が点在し、ユビエダハマサンゴ群落広がる。		
		キョンナ	0	5%未満	2006年には被度10%まで回復してきたミドリイシ類が食害により壊滅。ミドリイシ属の小型群落やハナヤサイサンゴがまばらに見える。		
		有良	0	5%未満	2006年には被度15%あったサンゴがオニヒトデによりほぼ全滅。ミドリイシ属の小型群落やハナヤサイサンゴがまばらに見える。		
		芦花部	0	5%未満	2006年には被度15%あったサンゴがオニヒトデによりほぼ全滅。ミドリイシ属の小型群落やハナヤサイサンゴがまばらに見える。		
		摺古崎礁池	0	30	エタコモンサンゴとゾジカスモンサンゴ、ハナカササンゴの群落が見られる。ミドリイシ属の新規加入はほとんど見られない。		
		摺古崎礁原	0	15	卓状のミドリイシ属が優先している。新規加入のサンゴが多く、多様性も高い。健全な状態が保たれている。		
		大浜礁池	0	5%未満	ミドリイシ属の小型群落がごく少数見られる。新規加入のサンゴがほとんどなく、サンゴの回復は遅れている。		
		崎原東	0	70	卓上ミドリイシが優占している。オニヒトデ食痕もなく、健全な状態が保たれている。奄美市名瀬海域では被度が一番高い。		
		崎原南	0	30	樹枝状ミドリイシ群落が点在している。2007年オニヒトデにより、群落の大部分が死滅したが、回復が進んでいる。		
		仲干瀬崎(小湊南)	0	40	ハナヤサイサンゴが優占している。コリンボース状のミドリイシ属が増加している。		
		笠利地区		用安			
		節田					
		蒲生崎					
		赤木名先					
		前肥田沖					
		住用地区		高浜東	0	60	卓状クシハダミドリイシが優占している。枝状のヒメヅツミドリイシ小群落も点在している。状態は良好で、順調に回復している。
		高浜	0	40	直径30-40cmの卓状ミドリイシの小型群落が高密度に見られる。状態は良好で、順調に回復している。		
		鳩ノ崎	0	5%未満	サンゴは壊滅状態で、死滅したサンゴ骨格が残る。新規加入のサンゴも少ない。		
		トビラ	0	40	塊状及び枝状ハマサンゴ類が優先し、枝状ミドリイシが点在。葉状のリュウキュウキッカサンゴ小群落も見られ、サンゴの多様性が高い。		
		スタルトビラ	0	10	礁縁に卓状ミドリイシの小群落が見られる。波あたりが強く骨格の固い種のサンゴが多い。		
		和瀬	0	60	枝状のミドリイシ小群落が点在する。葉状のコンサンゴや塊状のハマサンゴ、卓状のミドリイシも見られ、多様性が高く、新規加入も多い。		
		大和村		今里沖	0	5%未満	サンゴは壊滅状態で、大型の卓状ミドリイシの骨格が残る。新規加入のサンゴも少ない。
		今里小浜	0	5%未満	サンゴは壊滅状態で、大型の卓状ミドリイシの骨格が残る。新規加入のサンゴも少ない。		
		名音沖	0	5%未満	サンゴは壊滅状態だが、小型のミドリイシ属がまばらに見られる。大形のハナヤサイサンゴも見られる。		
		名音隧道	0	5%未満	サンゴは壊滅状態で、大型の卓状ミドリイシの骨格が残る。小型のミドリイシ属が多く見られる。		
ヒエン浜(中央)	0	10	クハダミドリイシやヤスミドリイシ、オヤユビミドリイシ等の大型群落が保全されている。周辺海域では大型群落は生存在していない。				
ヒエン浜(戸田側)	0	5%	局地的にクハダミドリイシやヤスミドリイシの大型群落が保全されている。キクメイ科のサンゴも点在している。				
大山崎西浜	0	10	小型のミドリイシ属が多く見られる。他の地点よりもサンゴの回復が早く、新規加入数も多い。				
トルス	0	5%未満	サンゴは壊滅状態で、ミドリイシの新規加入も少ない。				
マッコ	0	5%未満	サンゴは壊滅状態で、ミドリイシ小型群落がまばらに見られる。				
石川	0	5%未満	サンゴは壊滅状態で、ハナヤサイサンゴや新規加入のミドリイシ小型群落がまばらに見られる。				
親川	0	5%未満	サンゴは壊滅状態で、ハナヤサイサンゴやミドリイシ小型群落がまばらに見られる。				

平成21年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名		調査費	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
協議会	大和村	2,052,000 (再掲)	宮古崎	0	5%未満	サンゴは壊滅状態だが、ミドリイシの新規加入が多く、他の地点よりもサンゴの回復が進んでいる。
			志戸勤トンネルコモリ	0	10	直径50m、深さ10mのコモリ。枝状ミドリイシ属や枝状アナサンゴモドキ属の小群落点が点在している。
			志戸勤トンネル礁池	0	20	枝状ミドリイシの小群落点が点在している。礁池内ではサンゴの回復が順調に進んでいる。
			ヒエン浜(礁池)	0	5%未満	サンゴ礁が堆積し、塊状ハマサンゴが点在している。ミドリイシ属のサンゴはほとんど見られない。
			大棚	0	5%未満	サンゴは壊滅状態で、ミドリイシ小型群落がまばらに見られる。
			国直北	0	5%未満	サンゴは壊滅状態で、卓状及び枝状のミドリイシの骨格が残る。ミドリイシ小型群落がまばらに見られる。サンゴの回復は遅い。
	国直		0	5%未満	サンゴは壊滅状態で、卓状及び枝状のミドリイシの骨格が残る。ミドリイシ小型群落がまばらに見られる。サンゴの回復は遅い。	
	宇検村		曾津高崎東	0	75	大型の卓上ミドリイシ群体が一面に広がっている。順調にサンゴ群集が回復している。
			外浜	0	40	礁斜面は被度が低いが、礁縁付近は被度が高く、大型卓状ミドリイシ群体も見られる。
			屋鈍崎	0	5%未満	サンゴが死滅した礁斜面上部にミドリイシ属のサンゴが定着している。
			屋鈍	0	5%未満	サンゴが死滅した礁斜面上部にミドリイシ属のサンゴが定着している。
			タエン崎	0	5%未満	サンゴが死滅した礁斜面上部にミドリイシ属のサンゴが定着している。
			タエン	0	10	小型のミドリイシやキクメイシ類が点在し、多様性に富んでいる。
			枝手久島北	0	70	大型の卓上ミドリイシ群体が多くみられ、新規加入のサンゴも多い。サンゴが順調に回復している。
			倉木崎	0	40	小型のミドリイシ群体が多く見られる。礁縁付近には、大型のミドリイシ群体も見られる。
			船越海岸	0	70	大型の卓上ミドリイシ群体が多くみられ、新規加入のサンゴも多い。サンゴが順調に回復している。
	龍郷町		円	0	5%未満	オニヒトデの食害によりサンゴは壊滅状態であるが、ミドリイシ属の新規加入が見られた。
			嘉渡	0	5%未満	オニヒトデの食害によりサンゴは壊滅状態であるが、ミドリイシ属の新規加入が見られた。
			今井崎	0	30	ニオウミドリイシやダイオウサンゴ、オオハナガタサンゴの大型群体が見られた。
			ハナゴイ	0	30	パラオハマサンゴの大型群体が連なり、周辺には塊状ハマサンゴ群体が広がっている。
			赤尾木(中央)	0	40	塊状ハマサンゴ群体が点在し、卓状及び枝状ミドリイシ属が健全な状態で生存している。
			白浦	0	20	サンゴ礁が堆積している根に枝状ミドリイシの小群落点が点在している。基部は死滅し、先端部のみ生存している。
			戸口(アーチ)	0	15	ハナヤサイサンゴ類が優先している。ツツユビミドリイシやオヤユビミドリイシの小群体も見られる。
			アウン	0	5%未満	サンゴはほぼ壊滅状態で、付着藻類が多く、新規加入のミドリイシ属はない。
			ウマズバマ	0	20	オニヒトデによる壊滅は免れている。新規加入のミドリイシ属も多く見られる。樹状ミドリイシ類の大型群体も見られた。
			戸口落水	0	10	サンゴは壊滅状態だが、小型のミドリイシ属がまばらに見られた。
			久場	0	30	透視度は5m以下である。塊状及び枝状ハマサンゴ類が優先している。卓状ミドリイシ属も散見している。
倉崎		0	20	塊状ハマサンゴや卓状及び枝状ミドリイシ属の小型群体が見られる。		
瀬戸内町	262,000	実久	0	0-24	直径3~5cmの枝サンゴが見られる。	
	デリキョンマ崎	0	50-74	サンゴの状況は、昨年と変わらず。テーブルサンゴの白化現象が少し見られた。		
	黒崎	0	0-24	サンゴの死骸が多く、再生の兆しは見られない。		
	安脚場	0	25-49	小さなサンゴがほとんどで、サンゴの死骸の中で成長しているものも見られた。		
喜界町	390,000	花良治	0	25-49		
	池治	0	0-24			
	塩道	0	0-24			

平成21年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査費	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
徳之島町	150,000	畦	6	75-100	レイシガイの被食は目立つ。
		母間	5	75-100	
天城町	344,000	松原漁港沖	0	0-24	潮通りの良い場所では、サンゴの生育が良かった。その他の場所では、サンゴは見られない。
		浅間沖	0	0-24	潮通りの良い場所では、サンゴの生育が良かった。場所によっては、サンゴが増えていた。
伊仙町	166,900	喜念崎	12	50-74	
和泊町	522,000	西原	0	50-74	
		出花	0	50-74	
		ワンジョ	0	50-74	レイシガイが確認された。
		イダシチ	0	50-74	レイシガイが確認された。
知名町	170,000	屋子母	0	0-24	塊状のサンゴが多い。オニヒトデはない。
		屋者	0	75-100	サンゴの生育状況は、前回より良い。
		沖泊	0	75-100	レイシガイが非常に多い。
与論町	532,000	供利沖	1	0-24	小さなオニヒトデを1個体発見したが、食害痕のあるサンゴがあるため、小さなものが隠れている可能性がある。
		皆田沖	0	25-49	25%に近い被度である。オニヒトデは見つからなかったが、食害痕があるサンゴが見られた。日中は見つけづらいのではないかな？
		茶花沖(北側)	0	25-49	サンゴの被度は、やや増加した。個体数の増加というよりも、個体が大きくなっている。オニヒトデはの食害であるサンゴが見られた。
		茶花沖(南側)	0	25-49	サンゴの被度は、やや増加した。オニヒトデは見当たらないが、食害痕があるサンゴが見られた。
		赤崎沖(A)	0	0-24	オニヒトデ、レイシ貝は発見できなかったが、食害にあっているサンゴが見られた。
		赤崎沖(B)	0	0-24	食害による白化が発生しているサンゴがやや多かった。
合計	6,593,800				